

用語解説集 (参考)

2025年6月3日
一般社団法人 日本ガス協会

用語解説 (五十音順)

(あ行～さ行)

「アクションプラン2030」イノベーション関連はp.6以降

	用語	解説
あ行	安全型機器	災害時や不適切な使用を行った際に、センサー等で機器の運転状態を感知し、自動的に停止させる等、事故や火災等を防止するための安全機能を有したガス機器。
か行	「ガスと暮らしの安心」運動	毎年全国のガス事業者で実施している、お客さまにガスを安全に安心してお使いいただくための、ガス機器やガス設備の正しい使用方法の周知等を行う運動。
	経年埋設内管	埋設環境等によっては腐食が進行し、漏えい発生につながる可能性があることから、お客さま敷地内の埋設ガス管のうち、取替等の改善へ向けた取り組みを実施している経年管。
	コージェネ	コージェネレーションシステムの略。1つのエネルギー(都市ガス等)から複数のエネルギー(電気と熱等)を同時に取り出すシステム。ガスエンジン、ガスタービン、燃料電池で発電し、発生する排熱を工場等での生産プロセス・給湯・冷暖房等に利用する。
さ行	仕向地自由契約	LNGの取引において、買主がLNGの仕向地(受入基地)を自由に設定・変更できる契約のこと。通常、仕向地条項がある場合、買主は特定の受入基地にのみLNGを輸送することが義務付けられ、第三者への転売が制限される。
	準公的施設	学校、病院、社会福祉施設、保育園に該当する民間の保安上重要な建物。
	スマートエネルギーネットワーク	分散型エネルギーシステム(コージェネ、太陽光等)を導入し、地域で使用する熱と電気をネットワーク化し、エネルギーの需給を最適に制御するシステム。
	スマート保安	AIやIoT等の先進技術を活用して、保安管理における安全性と効率性を高めることで、保安・安定供給の更なる維持・向上を図っていく取り組み。

用語解説（五十音順）

（た行～は行）

「アクションプラン2030」イノベーション関連はp.6以降

	用語	解説
た行	地政学リスク	特定の地域や国の政治的、軍事的、社会的な緊張や対立が、その地域や世界全体の経済や安全保障に影響を与えるリスク。
な行	認定高度保安実施事業者制度	テクノロジーを活用しつつ自立的に高度な保安確保が可能であると国に認定された事業者に対して、安全性の確保を前提として保安規制に係る手続き・検査の柔軟な運用を認める制度。
	ネガティブエミッション	大気中のCO ₂ を回収・吸収し、貯留・固定化することで、正味としてマイナスのCO ₂ 排出量を達成する技術の総称。
	ねずみ鑄鉄管	材質の特徴として、鋼管に比べ腐食に強い反面、埋設環境等によっては亀裂・折損による漏えい発生につながる可能性があることから、2025年度までに完了する計画で対策を実施している経年管。
は行	バイオガス	生ごみ、下水汚泥、家畜ふん尿等の有機物から微生物によるメタン発酵で発生するガスのことであり、カーボンニュートラルなガスとみなされる。バイオガスから精製したバイオメタンは、都市ガスの原料に利用することができる。
	ボラティリティ	LNGにおいては、需給・価格の変動を指す。

用語解説 (ABC順)

(B～D)

「アクションプラン2030」イノベーション関連はp.6以降

	用語	解説
B	BECCS	「Bioenergy with Carbon Capture and Storage」の略称。バイオマス発電とCO ₂ の回収・貯留技術(CCS)を組み合わせた技術。
C	CCS	「Carbon Capture and Storage」の略称。CO ₂ を回収して地中に貯留する技術。
	CCU	「Carbon Capture and Utilization」の略称。CO ₂ を回収して新たな資源として活用する技術。メタネーションもCCUのひとつ。
	CCUS	「Carbon Capture, Utilization, and Storage」の略称。CCUとCCSを組み合わせたものであり、CO ₂ を回収し、貯留や有効利用する技術。
	CO ₂ 累積排出量	過去からある時点までのCO ₂ 総排出量。CO ₂ は大気中に長期間とどまるため、気温上昇はCO ₂ 累積排出量に大きく影響される。そのため、CO ₂ 累積排出量を抑制することが重要。
D	DAC	「Direct Air Capture(直接空気回収技術)」の略称。大気中に含まれる低濃度のCO ₂ を直接回収する技術。
	DACCS	「Direct Air Capture with Carbon Storage」の略称。DACとCCSを組み合わせたものであり、大気中のCO ₂ を直接回収し、地中に貯留する技術。
	DR(デマンドレスポンス)	需要家(企業、消費者)が電力の供給状況に応じて電力使用量を調整することで、電力供給の安定化と効率化を図る仕組み。

用語解説 (ABC順)

(G～Z)

「アクションプラン2030」イノベーション関連はp.6以降

	用語	解説
G	GHGプロトコル (GREENHOUSE GAS PROTOCOL)	世界資源研究所(WRI)と持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)によって策定されたもので、温室効果ガス(GHG)の排出量を算定し、報告するための国際的な基準。
I	IPCC	「Intergovernmental Panel on Climate Change(気候変動に関する政府間パネル)」の略称。1988年に世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)によって設立された国際的な組織。気候変動の影響や適応策、緩和策に関する報告書を定期的に発表しており、これらの報告書は国際的な気候政策の基礎情報として広く利用される。
J	J-クレジット	省エネ・再エネ設備の導入や森林管理等による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度であり、経済産業省・環境省・農林水産省が運営している。
Z	ZEB、ZEH	快適な室内空間を実現しながら、省エネや再エネの活用で、建物で消費する年間のエネルギー消費をゼロにすることを目指した建築物(ZEB)、住宅(ZEH)のこと。

用語解説（「アクションプラン2030」イノベーション関連・五十音順）

（か行～ま行）

	用語	解説
か行	グリーンLPG	水素またはアンモニアとCO ₂ から合成(製造)されたLPガス。
	ケミカルルーピング燃焼	バイオマスや炭素系廃棄物等を燃料に、金属酸化物を循環させながら水や空気と反応させて、CO ₂ を分離回収すると同時に水素・電力を製造する技術。
	固体吸収型CO ₂ 分離回収	CO ₂ を選択的に吸収できる固体吸収材を用いてCO ₂ を分離・回収する手法。
た行	ターコイズ水素	メタンにエネルギーを加えて分解した水素。その際、固体炭素が生成されるため、大気にCO ₂ を排出することなく製造することが可能。
	炭酸塩製造によるCO ₂ 資源化	排気ガス中に含まれるCO ₂ と水酸化物を反応させて炭酸塩を製造し、洗剤や肥料等、様々な用途で利用する技術。
は行	ハイブリッドサバティエ	PEM形水電解による水素製造とサバティエ反応によるメタネーションの組み合わせ(サバティエの反応熱を水電解反応に利用)を一体化構成とし、メタネーションの高効率化を図る技術。
	バイオメタネーション	微生物のはたらき(メタン発酵)によってCO ₂ と水素からメタンを合成する技術。
	ブルーカーボン	光合成により大気中から沿岸および海洋の生態系に取り込まれ、長期間、海底や深海に貯留される炭素のこと。
ま行	マイクロバブルを用いたCO ₂ 地中貯留	CO ₂ を直径10μm以下に微細化(マイクロバブル化)することで、効率的にCO ₂ を地中に貯留する技術。

用語解説（「アクションプラン2030」イノベーション関連・ABC順）

(C～S)

	用語	解説
C	Cryo-DAC [®]	冷熱を表す「Cryogenics」の「Cryo」(クライオ)と、DACを組み合わせた造語。未利用のLNG冷熱を活用し、大気中から直接CO ₂ を分離回収する技術。
	Cryo-Capture [®]	冷熱を表す「Cryogenics」の「Cryo」(クライオ)と、CO ₂ 回収「Capture」を組み合わせた造語。未利用のLNG冷熱を活用し、工場排ガス等に含まれるCO ₂ を化学吸収法で分離回収する技術。
	CO ₂ 吸収型コンクリート	CO ₂ を吸収しながら硬化する性質を持つコンクリート。
P	PEM形水電解	固体高分子電解質膜(Polymer Electrolyte Membrane)を用いた水の電気分解により水素を作り出す技術。
	PEMCO ₂ 還元	固体高分子電解質膜(Polymer Electrolyte Membrane)を用いて水とCO ₂ から1デバイスで直接メタンを合成する技術。
S	SOECメタネーション	固体酸化物形電解セル(Solid Oxide Electrolysis Cell)を用いて「水とCO ₂ 」を高温電解により「水素とCO」へ高効率に変換した上で、メタンを合成する技術(メタン合成の反応熱を高温電解反応に利用することで、更なる高効率化が図れる)。